

歴史を歩く 愛を歌う



土坑出土土器(大和系)



黒駒に乗る太子伊



愛の花あざさ

万葉歌碑(伴堂一太)

- ・古墳時代3世紀中頃
三河地方(愛知県東部地方)から来た人が居住(伴堂遺跡)
- ・4世紀頃 ヤマト王権の直轄地である屯倉となる
- ・5世紀頃 三宅古墳群が最盛期を迎える
} 三河古墳群(三河遺跡)が造られはじめる
- ・6世紀前半 石見遺跡が造られる
- ・飛鳥時代 7世紀初頭、太子道が造られる
- ・奈良時代 大和国式下部に属する
条里制の遺構、平城京の橋から区画された
円面硯三河遺跡より出土
- ・平安時代 興福寺の荘園となる
- ・鎌倉時代 建保5年(1217)良頼房忍性三宅町屏風に生誕
元應元年(1319)但馬杵築神社の石造十三重塔
- ・室町時代 永正11年(1514)真福寺の仏堂樂園
戦国時代(15世紀後半~16世紀後半)環濠樂落ができる
- ・慶應4年(1868) 伴堂杵築神社(おかげ通り給馬車納)



人物埴輪(椅子にすわる男性)



下塚製
丸に星糸

・平成26年(2014) 三宅町 町制40周年

Lover's Sanctuary

「歴史と愛の町 屯倉」恋人の聖地に選定

- ・平成27年(2015) 京京和自動車道 三宅IC隣通
「恋人の聖地観光交流大賞」JT B賞受賞
- ・平成28年(2016) 「陽の風景」& 「音の風景」除幕式
「恋人の聖地観光交流大賞」観光交流賞受賞

Sanctuary Lover's Sanctuary Lover's



NPO法人「地域活性化支援センター」が選定する「恋人の聖地」に、邪馬台国の一隅であったこの地に愛の花あざさが香り、聖徳太子の和の願いと桓怒性の慈愛の心が漂う歴史的景観を観光の切り札として「歴史を歩く 愛を歌う」をコンセプトに町おこしを進める三宅町が平成26年4月1日に選定されました。



石彫モニュメントは手の平を聞いたような彫影石に二重のリングが付いており、太陽の方向にリングを向けると石に太陽の光を受けてのびたハートの影が、訪れた人を幸せにしてくれます。石彫モニュメントは回転できます。



ベルモニュメント(三宅町中央公園)は「愛」と「幸せ」の響きが入り交る心に残るようにとの願いを込めました。
♡1回目は自分の身を清め、♡2回目は相手の心を呼び、♡3回目は二人で愛を誓います。
恋のおまじないなので慌てずゆっくり鳴らしてみよう♪